

ハイパーターミナルからのテキスト出力をキャプチャする方法

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[正しい端末設定を使用して下さい](#)

[ルータ出力をキャプチャして下さい](#)

[中断信号を送信して下さい](#)

[ハイパーターミナル Xmodem によって Cisco IOSソフトウェアイメージを送信して下さい](#)

[関連情報](#)

[はじめに](#)

Microsoft ハイパーターミナルは最も広く使われたターミナル エミュレータ プログラムの 1 つです。この資料に Cisco ルータによっていくつかのハイパーターミナル 機能を使用する方法を説明されています。

[前提条件](#)

[要件](#)

このドキュメントに関しては個別の要件はありません。

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

正しい端末設定を使用して下さい

ハイパーターミナルのがらくた文字を見るか、またはルータがもはやキーストロークを受け入れなければ、ハイパーターミナル設定問題である場合もあります。ルータは普通デフォルト設定を使用します。

ハイパーターミナルのそれらの設定を行う方法の情報に関しては[コンソール接続の正しいターミナルエミュレータ設定を適用する方法](#)を参照して下さい。

デフォルト設定がよりよい結果を生まない場合、標準外設定を使用するためにルータが設定されることは可能性のあるです。有効なプロンプトが表示されるまでこれを確認するために、異なる速度で接続することを試みて下さい。

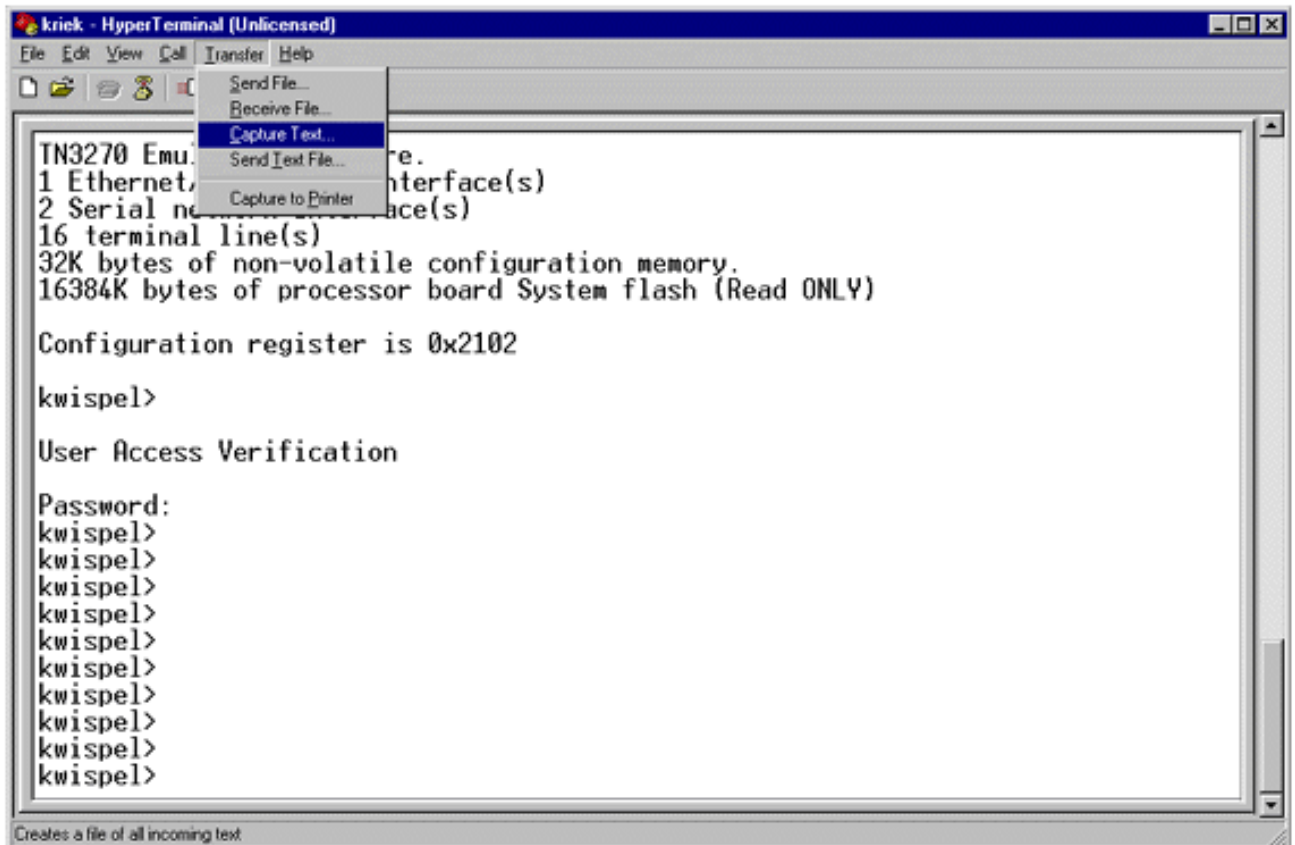
速度のどれも正常ではない場合、ルータはルータ ハング 状態にある場合もあります。問題を解決するために、[ルータがハングする場合のトラブルシューティング](#)を参照して下さい。

ルータ出力をキャプチャして下さい

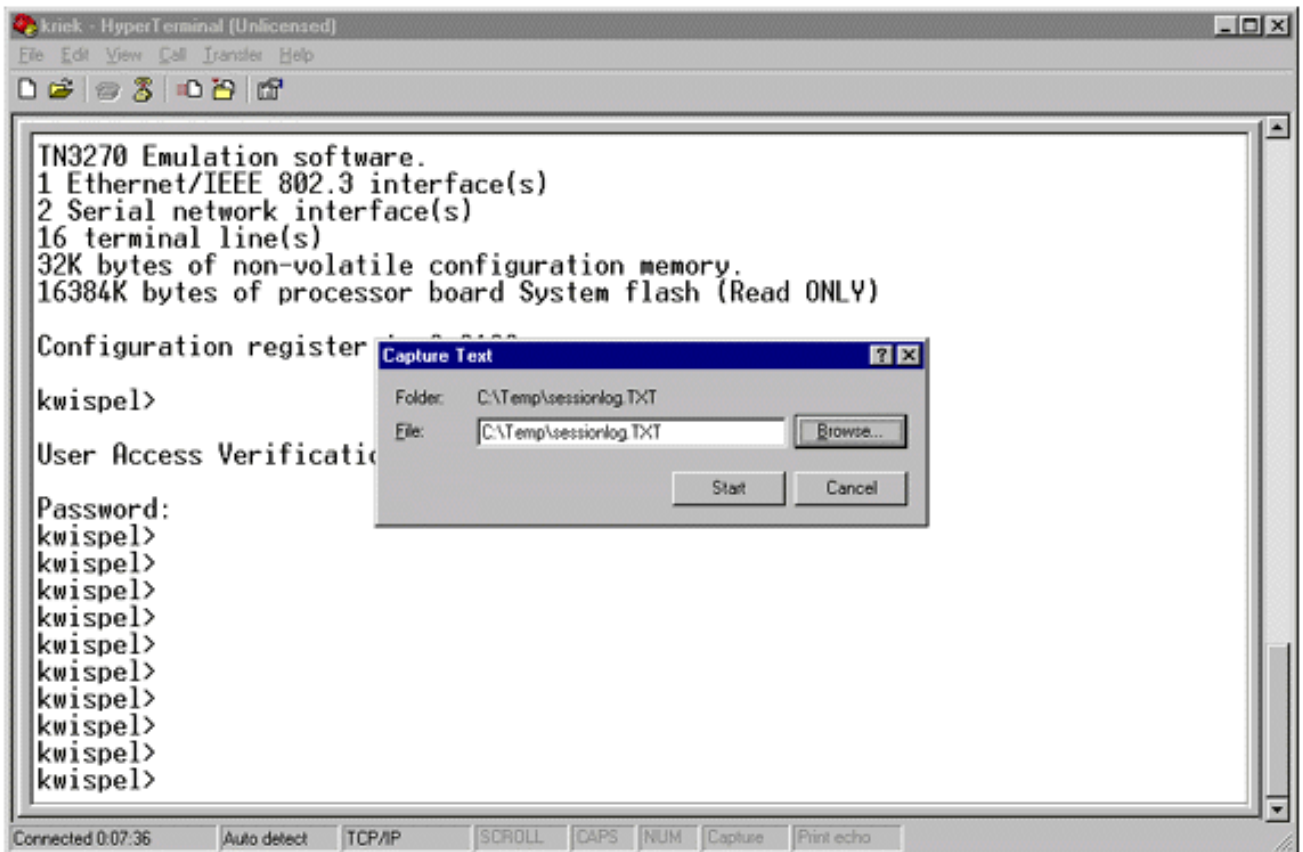
長い show コマンド (たとえば、show tech-support コマンドから) またはルータ デバッグの出力をキャプチャするために、コピー アンド ペーストします単に使用できません。その代り、ここに説明されるようにハイパーターミナルからの Capture Text オプションを使用して下さい:

1. ハイパーターミナル プログラムのメニュー・バーから『Transfer』を選択し、プルダウンメニューから Capture Text オプションを選択して下さい

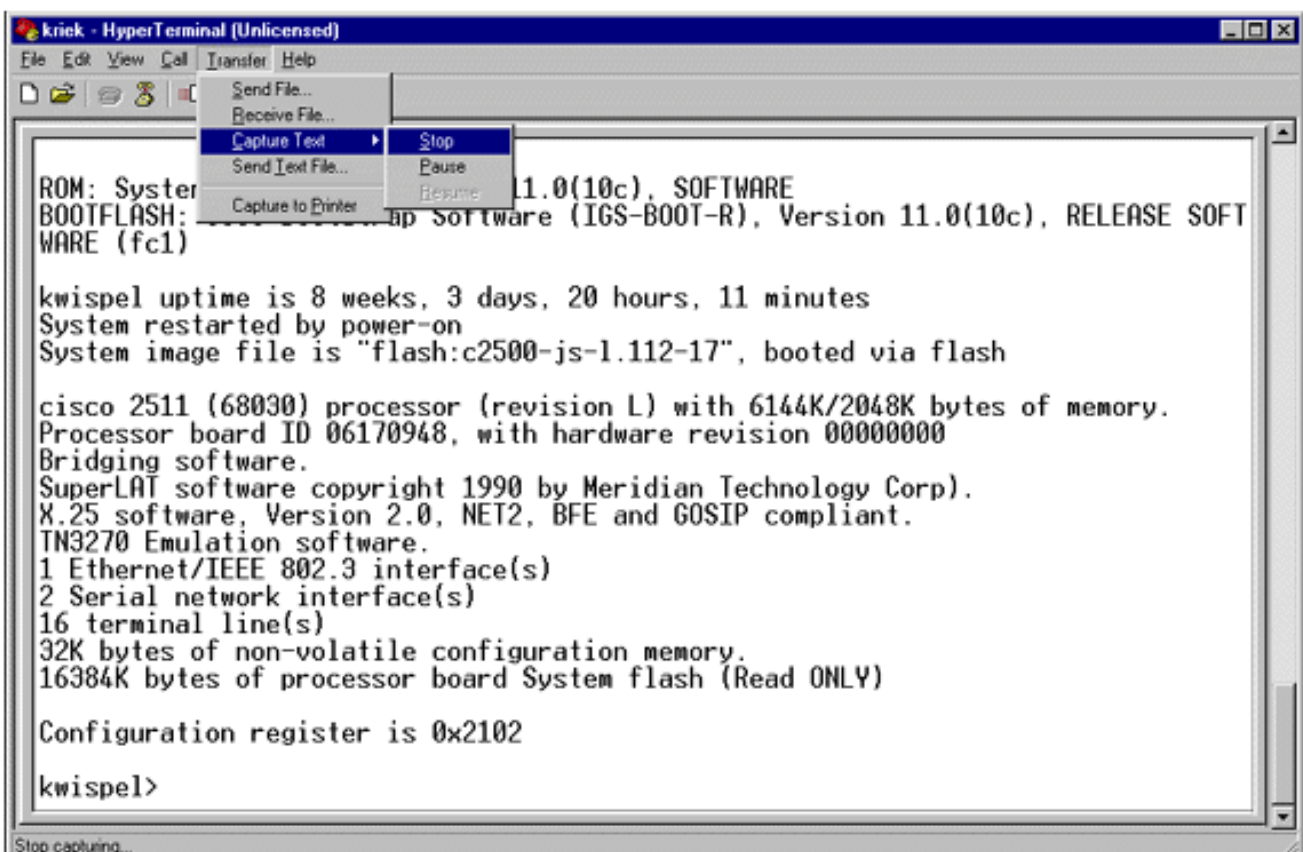
:



2. 表示されるダイアログ ボックスでは、エンジニアに送信したいと思うファイルの名前を作成して下さい。それから『Start』をクリックして下さい。



3. router# プロンプトで `terminal length 0` コマンドを入力して下さい。[terminal length コマンド](#) は各画面の後でスペースバーを押さなくてもコンソールがスクロールするようにします。
注: [show tech-support コマンド](#) に関しては、「terminal length 0」はデフォルトでオンになっています。
4. エンジニアがを頼んだ [show interfaces コマンド](#) のようなコマンドを、発行して下さい。
5. コマンドが完了するとき、キャプチャ テキスト sub メニューから **Stop** オプションを選択して下さい。



6. 同様に多くのテキスト キャプチャのためのステップ 1 ~ 必要とすると 5 を繰り返して下さい。新しく作成されたファイルを E メールに単に添付し、Cisco サポート 技術員に送信して下さい。注: terminal length をいつもゼロに設定することは必要ではありません。別の値までのゼロで滞在を設定する terminal length は手動で設定されます。
7. router# プロンプトで **terminal length 24** コマンドを入力して下さい。これによりコンソールは各フル スクリーンの後で休止します出力を理解することを可能にします:

[中断信号を送信して下さい](#)

パスワードを回復か、またはルータ ハングおよびブーティングの問題を解決することはルータに、中断信号を送ります。ハイパーターミナルに関しては、これは通常 Ctrl-Break か CTRL-F6 ブレークシーケンスとされます。追加可能性のあるキーの組み合わせのリストに関しては、[標準ブレークキーシーケンスコンビネーション](#)を参照して下さい。

ルータがブレークキーを受け入れない場合、トラブルシューティングに役立つヒントを[標準ブレークキーシーケンスコンビネーション](#) 資料からのブレークキーシーケンス セクションを模倣する方法を熟読すれば。

[ハイパーターミナル Xmodem によって Cisco IOS ソフトウェア イメージを送信して下さい](#)

どういうわけか (たとえば、起動障害) コンソールポートを通して Cisco IOS® ソフトウェア イメージをインストールする必要がある場合 XMODEM 転送を使用できます。詳しい手順に関しては、[ROMmon を使用した Xmodem コンソールダウンロードの手順](#)を参照して下さい。

[関連情報](#)

- [パスワード リカバリ中の標準的なブレーク キー シーケンスの組み合わせ](#)
- [コンソール接続のための正しい端末エミュレータ設定値の適用](#)
- [ROMmon における Xmodem コンソール ダウンロード手順](#)
- [ソフトウェア設定レジスタ](#)
- [パスワード リカバリ手順](#)
- [ルータ ハングに関するトラブルシューティング](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)